

**利用者自身が毎日楽しく
生きがいを持って働くこと**

ダークブルーの屋根に黄色い壁の外観が目を引く「おじゃったモールさつま川内館」。季節の野菜や果物、農畜産物、加工品などが並び館内では、12月から2月にかけて、一番人気のキンカンがずらりと並び黄色一色になります。県内各地から足を運ぶ人も多く、なかでも鹿児島市内から訪れる人が来館者の半分近くを占めているそうです。1年間に約12万人の来館者があり、昨年2月には開館以来100万人を突破するほどの賑わいを見せている物産館です。

「おじゃったモールのオープン前は、第1事業所『あすくーる入来』が月に2回程度野外でテント販売をしていました」と話すのは、社会福祉法人「ウイズ福祉会」サービス管理責任者の脇之蘭勝さん。利用者は販売班、惣菜班、パソコン班、総合班と、個々のできることや性格など



障害者就労支援施設 山の駅物産館「おじゃったモールさつま川内館」



「おじゃったモールさつま川内館」のトレードマークは笑顔!



キンカンの種取り作業の様子。コツコツと根気のいる作業ですが、丁寧にミスなくこなしていきます



12月～2月のシーズン中、10棟あるビニールハウスでは、実に傷をつけないよう一つ一つ手摘みでキンカンの収穫作業が行われます

に応じて4つの班に分かれて働いています。現在の登録者数は22名で、23歳から78歳まで、毎日20名ほどが勤務しています。「最初は12名からスタートしました。利用者さんは慣れないことも、経験を積み、目の前で買ってもらうことに喜びを見出し、農家の方やお客様とのコミュニケーションも上手に取れるようになっていきます。私たちが地元の特産品を扱うことで農家の収益向上に貢献できればいいですね」と脇之蘭さん。今では職員と同等レベルの仕事をごなす利用者も増えており、その活躍の成果は順調に売り上げに表れています。さらに利用者の受け取る工賃も高く、県平均工賃の倍以上です。

「利用者自身が楽しく生きがいを持って働いていることが大前提。仕事を覚えるのに時間はかかりますが、コツコツやればできるという思いで支援していきます。最近の事例では、家庭で引きこもりがちだったグループホーム『ウイズB』(ウイズ福祉会運営)の入所者が販売に携わることで、その日の売り上げを報告できるまでになり、毎日楽しそうに働いています」と目を細める脇之蘭さん。利用者の「いらっしやいませ」「ありがとうございました」の声飛び交う館内には、いつも笑顔が溢れています。

**障害者就労支援施設
山の駅物産館「おじゃったモールさつま川内館」**

薩摩川内市入来町浦之名7100-1
TEL 0996-21-4055
営業時間 9:00～18:00
休館日 第2・4水曜日、12月31日、1月1日

